

SEQUIMINI ME

セ ク イ ミ ニ メ

No.48
SPRING 2015



桃山学院大学チャペル・ニュース

目 次

巻頭言 「心温まる学びを桃大で」	チャプレン	松平 功	……………	1
～ アクーカ・ステューデント・キャンプ報告 ～				
「他国の学生と深くかかわることができた、特別な体験」	国際教養学部	3回生	明石 渚	…………… 3
「アクーカで初めての海外体験を!!」	経済学部	2回生	黒岩 祥多	…………… 6
～ オルガン講習・感想文 ～				…………… 11～14
「チャレンジの多い一年間」	社会学部	2回生	稲垣 由樹	
「オルガン講習を受講して」	経営学部	2回生	瀬口 英里	
「出会い」	法学部	3回生	浦上 美穂	
「2014年度オルガン講習を受講して」	法学部	4回生	横山 翔一	
「夢の楽器」	法学部	4回生	川下 美音	
「パイプオルガンから学んだこと」	法学部	4回生	南埜 未奈	
「パイプオルガンを弾いてみて」	国際教養学部	4回生	数藤 美愛	
2014年度チャペルコンサート、クリスマス礼拝献金等のご報告				…………… 15
桃学大チャペル附属聖歌隊で活躍しよう!!				…………… 17
キリスト教センターからのお知らせ				…………… 20

聖書の言葉

「兄弟たち、あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせず、愛によって互いに仕えなさい。」
(新約聖書・新共同訳、ガラテヤの信徒への手紙5章13節)

注) 桃山学院の「建学の精神」は、上記の聖書の言葉を土台としています。

表紙：桃山学院大学 聖ヨハネ館
ステンドグラス「ステファノの殉教」



「心の温まる学びを桃大で」

チャプレン（大学付牧師） 松平 功

「歩いても、あなたの足取りはたじろがず 走っても、つまづくことはないであろう。論しをとらえて放してはならない。それを守れ、それはあなたの命だ。」

（旧約聖書・新共同訳、箴言 4 章 12 節～ 13 節）

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。今から4年間、素晴らしい大学生活を送っていただきたいと願っています。

さて、本学の入学式が4月2日に行われましたので、その日にちなんだお話をしたいと思います。4月2日と言うと、その日はデンマークの童話作家、アンデルセン（1805～1875年）の誕生日です。ご存じの通り、彼は『親ゆび姫』、『みにくいアヒルの子』、『赤い靴』、『人魚姫』など、世界中の多くの人々に親しまれている童話を生み出しました。しかし、童話を知っていても、彼がどのような人生を歩んだのかを知る人はあまりいないようです。

アンデルセンは貧しい靴職人の家に生まれ育ち、学校でちゃんとした教育を受けることができなかったと言われています。しかし、貧困の生活であっても父親から色々な物語を読み聞かせてもらったり、母親からキリスト教の信仰について学んだりして、温かい家庭の中で詩的な才能を開花していったようです。父親の死後、彼は家を出てコペンハーゲンに上京し、オペラ歌手を志しますが成功することはありませんでした。

彼をふびんに思った王立劇場のコリン支配人が、アンデルセンを援助して高校に行かせます。そこで彼は一生懸命に勉強に励

んでコペンハーゲン大学に入り、貧しい暮らしをしながらも、耐え忍んでやっこのことで卒業するのです。彼が第一作目である『即興詩人』を書き上げた時、すでに30歳を超えていたことから、彼の努力が伺えます。その後、沢山の童話集を発表して著名童話作家のひとりになっていくわけですが、彼の足跡を見れば「学び」という忍耐と熟成の期間が必要であったことが良くわかります。ただ、アンデルセン童話に特徴的な温かい思いやりの心や、不思議な幻想的世界観は苦しくも楽しかった幼少時代を反映しているのでしょうか。アンデルセンは自叙伝である『我が生涯の物語』の中で、「私の少年時代は一遍の美しい物語だった。物は無くても人は幸せになれる」と書いています。人間には学問の学びだけではなく、心の学びも必要なのです。現在、アンデルセンの功績にちなんで、彼の誕生日である4月2日は「子どもの本の日」となっています。

新入生と在学生、その数に留学生や大学院生を含めると、本学では八千人近くの学生達が勉学に勤しんでいます。その学生達に考えていただきたいことは、勉学や専門的知識がは必要不可欠であること以上に、アンデルセンが受けたような温かい心の学びが大切であるということです。この心の

学びをアンデルセンは少年期の家庭で受けましたが、皆さんには本学で用意された諸々のプログラムに参加することで受けていただきたいと願っています。桃山学院は、ミッション系の学校で、キリスト教の「自由と愛」を建学の精神としています。各プログラムに参加することを通して、クリスチャン・スピリットを背景とした心の教育で成長していただければと思います。また、キリスト教系の授業が開講されていますので、それらを受講したり、チャペルでの活動に参加したりして、キリスト教およびそれを基礎とした考え方などに是非、触れていただきたいと思います。そのような学び

の中で、現在の社会が求めている大学での学問のあるべき姿に気づき、その方向を見出すことができるかもしれません。

「自分だけが良ければそれでよし」といったような、現代社会の人々の心のあり方に疑問を投げかけ、本学での心の学びを通して本質的に人間が幸福に過ごすことのできる社会を追求する若人になっていただきたいと願ってやみません。本学での学びの中で専門的知識を培い、さらにクリスチャン・スピリットである「自由と愛」を内に秘めて、桃山学院大学の学生として素晴らしい内面的成長を遂げられるように期待しています。

○ アクーカ・ステューデント・キャンプ報告 ○

アクーカ（ACUCA）とは、アジアのミッション系大学が約70校集って活動しているグループの名称で、正式には“Asia College and University Association”と言います。このグループに桃山学院大学も参加して、共に活動を行っています。主なプログラムとしては毎年の研修会、二年に一度の総会、そして、二年に一度の「アクーカ・ステューデント・キャンプ」です。今回は台湾にある天主教輔仁大学（フージン）でステューデント・キャンプが開催されました。本学からも二名の学生がキャンプにジョイントして、大きな学びの収穫を得ました。それでは以下に、本学からの参加学生の報告を掲載させていただきます。

「他国の学生と深くかかわることができた、特別な体験」

国際教養学部 3回生 明石 渚

今夏、私は ACUCA Student Camp に参加するため、台湾にある天主教輔仁大学に行きました。本学の研修や個人旅行を含め、台湾に行くのはこれが3回目となりましたが、ACUCA Student Camp に参加をすることはこれまでの体験とは少し異なっていました。ACUCA とは、

アジアのキリスト教主義の大学が相互協力の発展のために結成した団体で、今回参加したプログラムはこの ACUCA が主催で行われました。

私はクリスチャンではありませんし、ACUCA について何も知識がありませんでしたので自分なりに ACUCA について調べることから準備を始めました。さらにプログラムに参加するにあたり、テーマである「教育の価値」についてのレポート作成が課題として出され、私にとっては決して簡単なことではありませんでしたが、悪戦苦闘しながらも自分なりに深く考え、そして自分の思う内容を書き、ACUCA Student Camp に臨みました。

プログラムは5日間の日程で行われ、初日はオープニングセレモニーと各グループに分かれ簡単な自己紹介、そしてウェルカムパーティーがあり、初対面の学生同士が交流し、次第に打ち解けていくことができました。そして2日目以降は講演会やグループワーク、プレゼンテーションを主に行い、夜は交流会や希望者のみで台北の夜市に行ったりと、他国からの参加者とともに常に行動する状況下でプログラムが進んでいきました。なかにはそれぞれの国に分かれて各国の伝統の踊りや衣装、文化を紹介する CULTURAL NIGHT があり、私たち日本人学生チームは浴衣やはっぴを着て衣装の紹介をしたり、盆踊り、歌を披露しました。さらに3日目には小旅行が企画されるなど、グループワークやプレゼンテーションのみならず、異文化に触れる機会がふんだんにある、充実した時間を過ごすことができました。



アクーカ・ステューデント・キャンプでの集合写真

現地では諸外国から集まった仲間とともに5日間過ごし、私の知らなかった多くのことを知る、学ぶチャンスが多々ありました。他国から参加した学生はほとんどがクリスチャンという状況下で、わからなければ調べる、聞くの繰り返しで、それにより多くの知識を得たり、考えたり、新たな体験をすることができました。またそのような状況下であったからこそ、自分自身も必死に学ぼうと思えたのかも知れません。日本での生活とは違った刺激や他国の価値観といったものを得ることができたこと、また学生同士が互いに意見を交わし、聞くことで信頼や友情が深まり、私にとっては充実した期間を過ごすことができました。

私は大学生になりカナダに留学したり、同じ台湾の天主教輔仁大学に短期研修に行ったことがありますが、それは語学の知識を増やし、自分のものにすることが目的でした。しかし今回は目的が語学が主ではなく、他国の学生と深くかわり、多くを学びテーマに沿って勉強をし、考えること。私にとってこのような機会は初めてであり貴重な経験でした。私は現在3回生で来年から就職活動が始まりますが、今回この ACUCA Student Camp に参加したことにより、積極的に行動することができるようになり

ました。それはいきなりテーマが発表され、それに基づきディスカッションを行うという、多くのグループワーク行われたことによります。私を含め、日本人は他国の学生に比べると自分の意見をあまり言わず、消極的だと感じました。いつまでも黙ったままでは自分の考えを伝えることができない、そんな状況下で考えを伝え、そして他の学生の意見も聞くことができる機会が多くありました。そしてその経験を通じて、たとえ意見が違っていても、自分が考えたことをはっきり伝えることは、恥ずかしいことではないと思えることができました。就職活動のみならず、これから社会で生きていくなかで、自分の意見をきちんと伝えることができる人間になりたいと考えました。また、これを機会に桃山学院大学にいる留学生とさらに交流を深め、大学生活をを充実したものにできればと思います。

私にとって、非常に貴重な経験ができました。ありがとうございました。



カルチュラル・ナイトでの記念撮影。右が明石さん

「アクーカで初めての海外体験を !!」

経済学部 2回生 黒岩 祥多

私は生まれてから一度も海外へ渡航したことがありません。ですから、今回の ACUCA Student Camp が、私の海外デビューとなりました。今までずっと桃山学院大学の海外プログラムに参加したいと思っていたのですが、自分自身に忙しいからとか、お金がないからという言い訳をしながら、その思いを実行に移せずにいたのです。そのような状況の中で、友人から ACUCA Student Camp の募集をしていると聞き、ダメ元で応募したのです。何故ダメ元だったかと言うと、このプログラムでは大学の援助があるため無料で開催地に赴くことができるからです。さぞかし倍率も高いだろうと思っていたのですが、全くそのようなことはなく、難なく派遣学生として選ばれることになりました。

今回の ACUCA Student Camp に参加して感じたことは、外国の大学生達と親しい関係性を持つことの大切さです。他国の同世代の若者達と語り合い、意見交換をしながらプログラム期間を過ごせたことは、私の大学生活の中でも一番の思い出となり、また、何物にも代えがたい素晴らしい経験となりました。



フィールドトリップで楽しむ参加者達 右端が黒岩君

実を言うと、プログラムの準備期間として日本でプログラムに向けての課題提出や自主学習も必要とされていたのですが、具体的な内容がイメージできず、しておくべきことが全くと言っていいほど思うように進まなかったのです。そのため、助言してくださっていたキリスト教センターの方々には大変迷惑をおかけし申し訳ない思い出っばいです。そして、そのような準備不足からくる不安で心が折れそうになっていました。さらに、現地に到着して実際にプログラムが始まった当初は、日ごろの勉強不足がたたり、他学生と交流することでさえ困難を憶えました。

外国の地ですので当然のことながら、会話は英語です。使用する言語がプログラム全体を通して英語であることはもちろんわかっていたのですが、自身の英語力の無さ以上に、他国の学生（全員アジア圏からの参加）が皆、英語に堪能であることに驚き、話すことができない自分が恥ずかしいと感じるとともに、焦りも感じました。日本にいる時は、英語でのコミュニケーションに苦勞することは覚悟していましたが、心の中では分からなくても何とかなるだろうという思いも実はあったのです。しかし、英語ができなければ、何ともならないということを痛感させられました。他国の学生と一緒にいる間は、ずっと焦りっぱなしでした。しかし、よくよく考えてみると、この焦りが今となっては良い薬になったのではないかと思います。と言いますのは、プログラムが終わってからの帰国後も、また現在に至るまで語学学習に意欲的に取り組むことができるようになったからです。もちろん語学力だけが全てではないでしょうが、もし英語を身につけることができれば、例えば就職や進学の際に選択肢が広がること、将来海外で働きたい、勉強したいと考えた場合にも日本国内に留まらずに生きていくという可能性も広がるのではないかと考えることができました。

また ACUCA Student Camp は、キリスト教系の大学から同世代の学生が集まるということもあり、一部を除いて、ほとんどがクリスチャンの学生であるという状況下で過ごすことになりました。これは私にはしんどい経験でした。そして、しんどい反面、非常に大きな勉強にもなりました。殆んど日本人と同じく、私はクリスチャンではありません。また、キリスト教だけにとどまらず、日常生活で宗教に深く触れる機会もそれほどありません。そのような環境の中で、これまでの人生を歩んで来たわけですので、キリスト教について考えたり、語り合ったりすることは初めての体験だったのです。でも、そのような自分が世界宗教であるキリスト教に触れたり、他の大学生が宗教に基礎を置きながら、どのように考える道筋を立てているのかを目の当たりにして、とても面白いと思えるようになりました。本当に、日本では絶対にできない良い経験ができたと思います。また、プログラムに参加するにあたり準備を進めていく中で、文化や宗教、また宗派の違いなどについて調べ、友人からも話を聞く機会がありましたが、これまでになかった知識を得たりして、自分の価値観が広がったと感じています。実際にプログラム期間中に行われたディスカッションの際には、聖書に関連する話も多々飛び出し、他国の同世代の若者達の、宗教への深いかわりに驚かされ、特に

これからのグローバル社会を生きる上では、宗教に関する知識や理解といったものが当然のように必要になる（なっている）ということを感じました。

課題作成から事前の自学習、プログラム期間、そして帰国後と、自身の価値観について今一度考え、さらに日本人の価値観や日本文化を考えることで、自分を少しでも知ることができたと感じています。初めての海外渡航で、異文化を体験し、海外の方々とコミュニケーションをとっていく上で、英語はもとより互いの理解が大切であると感じることもできました。

最後に、ACUCA Student Campに参加するにあたり、様々なサポートをしていただきましたみなさま、とても貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

～ オルガン講習・感想文 ～

「チャレンジの多い一年間」

社会学部 2回生 稲垣 由樹

今回で2回目であり、たくさんの曲にチャレンジしたいと思っていましたが、一年間を通してレッスンではたった1曲しかできませんでした。しかし、去年に比べて人前でパイプオルガンを演奏する機会が多かった一年間でした。

今年は大学での礼拝や小学生などのチャペル見学会の際、パイプオルガンを弾かせて頂きました。奏でた曲は賛美歌であったり、後奏の曲であったり、短い曲をたくさん演奏しました。レパートリーが少なかったので、いつも同じ曲しか弾けないのがちょっと嫌でした。また、見学に来た子ども達にスイッチやペダルなどについて「これは何？」と聞かれても、分からないことばかりで、ドギマギしてしまいました。パイプオルガンを演奏しているだけで、パイプオルガン自体のことについて、あまり知識がないので、もう少し勉強してみたいと思いました。そして、色んなことを聞かれる度に新しいことを覚えることができ、自分では気づかなかったような疑問を、周りの人達から教えて頂けたと思っています。

最後の発表会では、多忙のためなかなか練習することができず、弾きたかった曲ができなかったこと、一年間弾き続けた曲でしたが本番では納得のいく演奏ができなかったこと、今となってとても後悔しています。時間の大切さを、このパイプオルガン講習で実感しました。残り2年となった学生生活、色んなことを経験し、挑戦していこうと思いました。パイプオルガン講習も他の大学ではなかなか経験出来ないことなので、また来年も応募してチャレンジしたいです。

「オルガン講習を受講して」

経営学部 2回生 瀬口 英里

私は小さいころから楽器が好きで5歳からピアノ、高校ではマンドリンをしていました。大学に入学し一人暮らしを始めてからは楽器に触れる機会が一段と減っていました。そんなときにオルガン講習のことを知って申し込みました。いままで一度パイプオルガンを見たことも音を聞いたこともなく、どういった楽器なのかもわかっていなかったので不安もありましたが、先生が丁寧にパイプオルガンの音のでの仕組み、オルガンの歴史から教えてくださいました。初めのころは同じ鍵盤のある楽器にも関わらず、指の使い方、弾き方などの違いで慣れるまで苦労しました。オルガン講習を受け始めたころは、思うように弾けず苦戦していましたが、すぐにパイプオルガンの音色が好きになり練習が楽しくなりました。ピアノでは弾いたことがなかったバロック時代の曲に挑戦したり、その当時の作曲家の話など知らないことをたくさん学びました。

私はオルガン講習を受けるまで、キリスト教のことは詳しく知りませんでしたが、この講



習を受講したことでキリスト教徒の習慣やイベントなどのことも教えていただきました。「ただオルガンを学ぶ」だけでなく、多くの関連することまで学ぶことができた良い機会だったと感じています。

課題、アルバイト、サークルにオルガンの練習と、しないといけないことが多く、練習時間を確保するのが難しい時期もありましたが、オルガン講習を受講して楽器のことだけでなく、幅広いことを教えていただきました。五年ぶりに人前で一人で楽器を演奏したので大変緊張しましたが、このような機会は滅多にないと思うので受講してよかったなと感じています。

「出会い」

法学部法 3回生 浦上 美穂

まず、久保田先生をはじめ、チャペル事務室の皆様方、7か月間大変お世話になりました。この場をお借りして、御礼申し上げます。

先日の12月の発表会では自分の満足のいく締めくくりになったという、複雑な思いです。久保田先生には、「本番では、8割、自分の思うように弾けたら充分よ。」とおっしゃっていたのですが、どうでしょうか。自分の中では、7割弱といったところです。やはり練習不足が原因でしょう。

私がパイプオルガンに出会ったきっかけは、高校3年生のときに訪れた桃山のオープンキャンパスです。そのとき初めて学校にチャペルがあることを知りました。しかも、教科書でしか見たことが無かったパイプオルガンをこんなにも間近で見ることが出来、そしてこの耳で聴くことが出来る。こんな夢のようなことがあるのかと非常に感動したことを覚えています。わがままを言って少し弾かせて頂きました。もし入学できたら、絶対もう一度弾かせてもらおうと兼ねてから思っており、その夢がようやく叶いました。

私の家には電子ピアノしかないので、出来るだけ学校に残って練習するように心掛けていました。練習で使う電子オルガンは予約制のため、なるべく早く予約を入れるようにしていました。自分の名前しか入っていないときもあり、「たくさん練習できる！」と嬉しく思う反面、恥ずかしく思ったときもありました。

先生とのレッスン時間は、毎週ほんとうに楽しくてたいへん貴重な時間でした。私は、7か月で4曲練習したのですが、中でも、誰もが一度は耳にしたことがある、バッハのトッカータとワーグナーの結婚行進曲が弾けるようになったことは本当に嬉しいです。特に結婚行進曲は、幼い頃から憧れて見様見真似で弾いていたので、その分思い入れが大きいです。

私はオルガン講習を通して、何事も興味を抱いたら、実行に移すことの大切さに気がさま

した。この講習がきっかけで仲良くなった先輩もいますし、何より今、念願が叶って幸せな気持ちでいっぱいです。来年度も、オルガン講習に是非参加したいなと思っています。

ありがとうございました。

「2014年度オルガン講習を受講して」

法学部 4回生 横山 翔一

2014年12月19日（金）、私は聖歌2曲とクリスマス・キャロル「まきびとひつじを」の3曲を演奏し、5月から受講していたオルガン講習を無事に終えることができた。

私が今回オルガン講習を受講しようと思ったのは、私自身チャペル附属聖歌隊に所属していたため1回生の頃から身近な存在であったオルガンを、卒業までに自分の手によって弾いてみたいと考えていたからである（聖歌隊では礼拝や入学式などの式典行事でオルガン伴奏の宗教曲や聖歌などを歌っており、今回私が演奏した曲目も聖歌隊でよく歌われている曲である）。

尚、従来は本学オルガニストで、聖歌隊とも深い交流がある松原晴美先生がこのオルガン講習を担当なさっており、勿論、今回も松原先生からのご指導を受けられるものだと思っていたので、松原先生が4月末に入院されたと聞いた時は「オルガン講習は無事に行われるのだろうか？」と心配したが、水曜日の講習は以前聖歌隊と交流したことがある神戸松陰女子学院大学のオルガニスト・伊藤純子先生の下で行う運びとなり、大変安堵したことを覚えている（それだけではなく、後に伊藤先生には聖歌隊としても幾つかの礼拝行事でお世話になり、オルガン講習を聖歌隊関連の連絡の場としても活用したり、また個人的によく知っている方のオルガン伴奏の下で安心して歌うことができた、というよもやま話）。

さて、肝心のオルガン講習についての話であるが、伊藤先生の丁寧なご指導や、聖歌隊としても馴染みのある曲目ばかりだったこともあり、余り苦勞した話はなく、むしろ「あの曲を自分が弾いているんだ！」と楽しみながら、日々の練習や本番に臨み、無事に講習と演奏会を終えることができた。

ともあれ、こうして無事に講習と演奏会をこなすことができたのは、やはり伊藤先生、チャペル事務室の皆様、そして、聖歌隊とも共演し、演奏会当日にお世話になった久保田真矢先生のご指導・ご鞭撻があつてのことだと思う。又、このオルガン講習で得た経験を活かし、今後ともオルガン伴奏をどこかですることができたらと考えている。

オルガン講習に関わって下さった全ての方々への感謝と、松原先生の早期のご回復への祈りをもって、本稿の結びとしたい。

「夢の楽器」

法学部4回生 川下 美音

今回、ほとんど楽譜が読めないながらも、パイプオルガン講習を受講しました。それは、これが私の入学前からの夢であり、この桃山学院大学に入学を決めた理由の1つだからです。

私の名前には“音”と言う字が入っています。なので、幼いころからいつか音楽をするのだと、漠然とした夢をもっていました。ですが特に楽器を習うでもなく、中学の頃に少しピアノを触る程度で、授業で習う知識しかありませんでした。そんな中、高校で進学する大学を探している時、学内にチャペル、そしてパイプオルガンを置いている変わった大学に目が止まりました。調べるうちに、キリスト教徒でなくても入学できることや聖歌隊に入隊出来る事、素人でも無料でパイプオルガンの講習を受けられる事がわかり、入学を決めました。

パイプオルガンはとても大きな楽器ですが、見かけによらず鍵盤はピアノよりも軽く、叩くというよりも指の重さで軽く押すような感覚で、経験したことのない不思議な重みでした。大学に通って4年ですので、聴き慣れた音のはずですが、演奏者の席に座って弾きながら聴くと、いつもより軽やかにそして深くお腹の底から響くような感じがしました。とても大きく太い音から小さく細い音まで自在に出せ、どの音も心が落ち着く優しい音色で、まるで魔法のような楽器です。伊藤先生と一緒に弾いている時は、チャペルに響き渡る音の壮大さにまるで自分がオルガニストになったようで、喜びや楽しさや自信も得ることが出来ました。

この機会を逃せば一生触れないかもしれない楽器ですので、受講出来た事を心から感謝しています。これを機にもっと音楽に自分から取り組んでいきたいと思います。

体調が悪くあまり講習にも出れず、発表も出来なかったのですが、私の中で一步を踏み出せた最高の経験です。

「パイプオルガンから学んだこと」

法学部4回生 南埜 未奈

パイプオルガン講習を受講したことは、とても良い経験になりました。初めてパイプオルガン講習の案内を見たとき、気にはなったものの、申し込みはせず大学生活を送っていました。後日突然、ボランティア活動に参加したり、留学したりと挑戦してきた大学生活を思い返し、私の大学生活での目標である「よく考え、行動し、そこから学び、突き進む」ということが頭に浮かびました。そして、何かしようと思いつき、「触れる機会が減多にないパイプオルガ

ンを弾きたい」、「発表会という場に立ちたい」という思いで申し込みました。

パイプオルガン講習が始まってからはというと、音楽が好きな私にとって週一回の講習は楽しくて仕方ありませんでした。練習も楽しく、何ととっても、私が弾くことでパイプオルガンでしか味わえない音色や迫力を感じることができたことが今でも印象に残っています。その興奮の反面、パイプオルガンを弾くことの難しさを痛感しました。ピアノ経験がある私は、パイプオルガン講習を受講するまでは、パイプオルガンもピアノも鍵盤を弾くには変わらず、その弾き方も同じだと思っていました。しかし、音の出る仕組みが違うため、ピアノと同じように弾いても、パイプオルガンの美しい音色は奏でられませんでした。自分で聴く音と録音した音とでは聴こえ方が違い、発表会前もその点で苦労しました。講師の久保田先生に「チャペル全体に音が届くように意識して弾くと、自然と綺麗な音が鳴り響く」と教わり、その気持ちを忘れず発表会に臨みました。発表会では緊張で頭が真っ白になりましたが、演奏後は達成感に満ちることができました。

今回、パイプオルガン講習の機会を与えてくださった大学関係及びキリスト教センターの皆様、並びに講師の久保田先生には感謝の気持ちでいっぱいです。単純にパイプオルガンを弾くのではなく、何事も気持ちを込めてすることが大事だということ、目標に向かって準備を怠らないことを学んだ今回の貴重な体験を生かし、今後も挑戦し続けていきます。

「パイプオルガンを弾いてみて」

国際教養学部4回生 数藤 美愛

オルガン発表会当日は、ものすごく緊張しました。演奏中は手が震えました。正直、あつという間で楽しかったです。私は、カノンという曲を弾いたのですが1曲、弾くためには私と関わって下さった先生や周りの友だちが関わっていました。

私は今まで楽器の経験がありません。むしろ楽譜が読めないという状態でした。そして私にとって、このパイプオルガンが人生で初めての音楽でした。私は4年生のある日「新しい事に挑戦したいな」と思っていました。HPで見たとき迷わず「これやりたいな」と思いました。しかし、上記にも書いたように楽譜が読めないこと、音楽の経験が無かったことに不安を感じました。

最初はグループごとに練習をしました。先生がカノンを弾いている動画を撮り、電車の中や家に帰ってから音楽を聴くように頭にメロディーを残しました。練習をする中で、お家でも練習したいと思いピアノを購入しました。動画を見ながら練習しました。右手だけでも苦戦したのに左手となると、思う様に手が動いてくれなかったです（笑）時間がある度、練習

していました。

特に難しかったことは足での演奏です。両手と足が、なかなか思うように行かなかったです。何回練習しても間違えてばかりでした。なかなか進まなくて悔しい気持ちにばかり思いました。学校で何時間も練習しました。気がつくと、発表会の日に近づいていました。

初めて1曲、間違えずに弾けた時の達成感は今でも覚えています。成功した時は誰かに聴いてほしくて、もどかしい思いでした(笑)発表会が終わると、ほっとした気持ちになりました。私がカノンという曲が弾けたのはたくさんの方々に関わってくれたからです。なにもかもが初心者なのに、親身になってくれた先生や演奏を聴きに来てくれた友だちに感謝したいです。パイプオルガンを弾いてみて、人は努力すれば必ず成功するのだと実感しました。改めて久保田先生・事務職員さん・友だちに感謝したいです。ありがとうございました。

桃学大 SCA(学生キリスト者会)への お誘いとお願い

桃学大 SCA は本学で唯一のキリスト教サークルで、大学創設から存在するという伝統があります。ただ、キリスト教サークルといっても、キリスト教徒でなくても入会できます。というよりも、キリスト教徒の方がレア者です。ミッション系大学ならではの様々なプログラムを知ってみたい人や活動してみたい人にとって、その足がかりとなるサークルだと思います。

さて、SCA では、バイブル・キャンプへの支援や ACUCA (アジアキリスト教大学連盟)、CUAC (聖公会大学連盟) の Student Camp への参加奨励に加え、様々な活動を予定しています。クリスチャンであってもなくても大丈夫ですので、大学時代の4年間に色々な活動を本学の建学の精神を基盤にしつつ、一緒にやってみましょう! SCA 加入希望者は、チャプレンまでお申し出ください。チャプレン室はキリスト教センター内にあります。

2014年度チャペル献金収支明細書

【収入の部】

チャペルコンサート献金

月・日	金額(円)
第116回 2014年 4月 19日(土)	30,289
第117回 2014年 5月 28日(水)	28,330
第118回 2014年 7月 12日(土)	19,803
第119回 2014年 10月 22日(水)	24,202
第120回 2014年 12月 6日(土)	27,304
計	129,928

特別献金および献金箱への献金

月・日	献金者	備考	金額(円)
2014年 5月 25日	桃山フェスタ売上(学生支援課)	ボランティア活動支援に用いる。	55,561
2014年 5月 25日	桃山フェスタ(古本市)売上(図書館)	ボランティア活動支援に用いる。	7,791
2014年 9月 20日	桃山学院大学 SCA OB/OG会	ボランティア活動支援に用いる。	10,000
2014年 10月 17日	2014年度 第1回キリスト教講演会	ボランティア活動支援に用いる。	3,953
2014年 10月 28日	2014年度 第2回キリスト教講演会	ボランティア活動支援に用いる。	29,039
2014年 11月 15日	第54回桃山祭古本市売上(図書館)	ボランティア活動支援に用いる。	6,432
2014年 11月 14日 ～ 11月 16日	第54回桃山祭バザー売上(学生支援課)	ボランティア活動支援に用いる。	55,590
2014年 11月 29日	逝去者記念礼拝時、献花料として ※		20,000
2014年 11月 29日	逝去者記念礼拝時献金		42,332
2014年 12月 11日	クリスマス礼拝	ボランティア活動支援に用いる。	17,045
計			247,743

※個人情報保護のため、個人名は記載しておりませんのでご了承ください。

普通預金利息

月・日	金額(円)
2014年 8月 18日	12
計	12

収入小計	377,683円
前年度繰越金	132,668円
収入総計	510,351円

【支出の部】

Friday, April 18, 2014	残高証明発行手数料	525
計		525

(※) 献金送付先・金額・手数料

献金送付先	金額(円)	手数料
東日本大震災支援をはじめとする本学学生のボランティア活動支援金(第116回チャペル・コンサート献金)	30,289	0
東日本大震災支援をはじめとする本学学生のボランティア活動支援金(桃山フェスタ売上:学生支援課)	55,561	0
東日本大震災支援をはじめとする本学学生のボランティア活動支援金(桃山フェスタ古本市売上:図書館)	7,791	0
東日本大震災支援をはじめとする本学学生のボランティア活動支援金(第117回チャペル・コンサート献金)	28,330	0
東日本大震災支援をはじめとする本学学生のボランティア活動支援金(第118回チャペル・コンサート献金)	19,803	0
8/7(財)日本国際ゲデオン協会(学内で新約聖書無償配付活動継続団体)への献金	10,000	0
東日本大震災支援をはじめとする本学学生のボランティア活動支援金(桃山学院大学SCA OB/OG会献金)	10,000	0
東日本大震災支援をはじめとする本学学生のボランティア活動支援金(2014年度 第1回キリスト教講演会 10/17)	3,953	0
東日本大震災支援をはじめとする本学学生のボランティア活動支援金(第119回チャペル・コンサート献金)	24,202	0
東日本大震災支援をはじめとする本学学生のボランティア活動支援金(2014年度 第2回キリスト教講演会 10/28)	29,039	0
東日本大震災支援をはじめとする本学学生のボランティア活動支援金(第54回桃山祭古本市売上:図書館)	6,432	0
東日本大震災支援をはじめとする本学学生のボランティア活動支援金(第54回桃山祭バザー売上:学生支援課)	55,590	0
東日本大震災支援をはじめとする本学学生のボランティア活動支援金(第120回チャペルコンサート献金)	27,304	0
東日本大震災支援をはじめとする本学学生のボランティア活動支援金(クリスマス礼拝献金)	17,045	0
合 計	325,339	

支出総計 325,864円

通帳残高 184,487円

聖歌隊員大募集！！

桃学大チャペル附属聖歌隊で活躍しよう！！



+ 聖歌隊って？

- ◎ 桃学大カラーのガウンを着て、入学式や卒業式で合唱する団体です。
- ◎ 創立記念日やクリスマスなどの学内行事にでも歌を披露します。
- ◎ 学外では福祉施設などで歌ったりすることもあります。
- ◎ キリスト教徒である必要はありません。

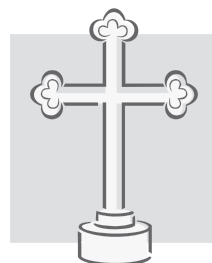
+ 聖歌隊に入ると何か良いことある？

- ◎ チャペルに附属している聖歌隊なので、部費や活動費などを請求されることはありません。
- ◎ 部室はキリスト教センター内の広い部屋なので、教室からも比較的近い。
- ◎ 練習は週に2～3回なので、アルバイトとのかけもちもOK！
- ◎ プロのボイストレーナーから指導を受けるので、メキメキ上達するかも。
- ◎ 部室には、自分専用の個人ロッカーがあってとても便利。
- ◎ 聖歌隊や合唱の経験がなくても入れます。

詳しくは：大学ホームページで検索してね。

ホームページは、桃学大の施設、キリスト教センターから入れます。

<http://www.andrew.ac.jp/ch-choir/index.html>



キリスト教センターからのお知らせ



第29回国際ワークキャンプ（インドネシア） 参加者募集

【日程】2015年8月18日（火）～9月4日（金）18日間を予定
（※国際情勢等の変化によっては日程変更・短縮・延期・中止の可能性あり）

【説明会日程予定】（以下のいずれかにご参加ください）

日 程： 4月9日（木）・10日（金）・13日（月）・14日（火）

時 間： 昼休み（12：40～13：10）

場 所： キリスト教センター集会室（※チャペルではありません）

申込受付： 4月13日（月）～17日（金）（9：00～17：00）

☆ 説明会にご参加ください。



バイブル・ランチに参加しよう！

学期中の毎週火曜日、お昼休み（12：40～13：00）にバイブル・ランチを開いています。昼食を食べながら、聖書やキリスト教のお話をします。メインスピーカーは大学チャプレンですが、ゲストスピーカーがお話することもあります。友人を誘って参加してください。場所は、キリスト教センター集会室です。お菓子や飲物もあります！



チャペルの行事に参加してみよう！

チャペルでは、年二回のキリスト教講演会と年5回のチャペル・コンサートを開催しています。講演会もコンサートも著名な方を招いていますので、参加しなければもったいない！感情の豊かな若い学生時代に、たくさんの素晴らしいお話しや心温まるような音楽など、いろいろなものを吸収しましょう。



チャペルに来よう！

チャペルでは学期中の毎週、月曜日と金曜日に礼拝を行っています。朝の礼拝は8時50分から55分まで、昼の礼拝は12時40分から10分ほどです。（行事やチャプレンの都合などで中止されることもあります）



チャペルは誰でも大歓迎！

チャペルは、夏は冷房、冬は暖房の効いた心地良いスペースです。休憩や授業の合間など、静かに心を整えるのに最適な場所であるといえるでしょう。チャペルは皆さんのお越しを歓迎します。ただ、雑談・喫煙・飲食は御法度なので、ご注意ください。（ペットボトルの飲水もだめです）



キリスト教センター集会室は利用可能です！

チャペルに隣接しているセンター集会室は、予約すれば使用できます。各種セミナーやゼミの集まり、サークルの活動やパーティーなどに利用できます。飲食可です。

† 聖公会とは †

本学の建学の精神は、「キリスト教精神」（自由と愛の精神）です。キリスト教の教派としては英国教会に属しており、日本での教派名は聖公会です。聖公会は、英国宗教改革から始まり、ヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカ、アジア、太平洋など世界中の国々に広がり、信徒数7千万人を越えております。このような世界的な組織の中で、日本聖公会は重要な位置を占めています。日本においては約350の教会、約5万人の信徒を擁し、キリスト教の宣教活動に加え、さまざまな教育・医療・社会福祉などの事業を全国各地で行っています。

本学の姉妹校としては、立教、立教女学院、聖路加看護、名古屋柳城、平安女学院、プール学院、松蔭女子学院、神戸国際などがあります。聖路加国際病院、聖バルナバ病院もよく知られています。桃山学院大学は、世界に広がる国際的なネットワークの中で、その一員として、「キリスト教精神」（自由と愛の精神）に基づき、「世界市民の育成」をめざして努力しているのです。

◇ 編集後記 ◇

「SEQUIMINI ME」第48号ができあがりました。ご寄稿いただいた方々に心から感謝いたします。また、このチャペル・ニュースを通して、チャペルへの興味を持っていただければと願っております。

(チャプレン 司祭 ヤコブ 松平 功)

「SEQUIMINI ME」桃山学院大学チャペル・ニュース第48号

2015年3月発行

発行所 桃山学院大学キリスト教センター

〒594-1198 大阪府和泉市まなび野1番1号

TEL 0725-54-3131

発行日：2015年3月20日



桃山学院の「キリスト教精神」

「自由と愛の精神」

桃山学院の学院章には、“SEQUIMINI ME”（我に従え）という言葉が刻まれています。それはイエスの弟子アンデレがイエスに従ったように、「自由と愛の精神」をもっていきることです。使徒パウロが書いています。「あなた方は、自由を得るために召しだされたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせず、愛によって互いに仕えなさい。」（ガラテヤの信徒の手紙5章13節）

自由には他者への愛と責任がともないます。「自由」とはひとりの人格と主体性を尊重すること、「愛」とは互いに仕えあいながら他者と共に生きることです。この「自由と愛の精神」は、単にキリスト教の立場だけでなく、すべての人間が一致しうる普遍的な理念であり、人類共通の目標です。

人間のそのような可能性を開花させながら、高い理想をめざしてチャレンジし続けていくこと、それこそが桃山学院の一世紀を超える伝統が目指そうとする「キリスト教精神」であり、「世界の市民」への道なのです。

桃山学院大学キリスト教センター

〒594-1198 大阪府和泉市まなび野1番1号

TEL 0725-54-3131

FAX 0725-54-3210